

## 凡 例

1. 「第 I 部 臓腑」の各論「五臓」の記述順は、五臓の位置の高低に従った。したがって「肺，心，肝，脾，腎」の順になっている。
2. 「第 I 部 臓腑」の各論「六腑」の記述は、『素問』五蔵別論篇にもとづき「胃，大腸，小腸，三焦，膀胱」の順とし、五蔵別論篇に記載されていない「胆」を最後とした。
3. 「第 I 部 臓腑」の各論「奇恒の腑」の記述順は、『素問』五蔵別論篇の「脳，髓，骨，脈，胆，女子胞」にもとづくが、「胆」は六腑で扱っているので、「奇恒の腑」では省略してある。
4. 総論や各論のすべての末尾に「参考資料」として、中国医学古典からの引用文を付けた。
5. 「参考資料」の引用文は、原文・書き下し文・現代語訳・一部語句に対する語釈からなる。
6. 引用文の文末に、引用文の書名・引用した章篇を（ ）の中に記した。
7. 「参考資料」の『素問』原文は、明・顧從徳本（底本は日本経絡学会影印本 1992 年版）を使用した。
8. 「参考資料」の『靈枢』原文は、『靈枢』明・無名氏本（底本は日本経絡学会影印本 1992 年版）を使用した。
9. 「参考資料」の『難経』原文は、江戸時代の多紀元胤著『黄帝八十一難経疏証』（底本は国立国会図書館所蔵 139 函 65 号）からのものを使用した。
10. 「参考資料」として引用した『素問』『靈枢』『難経』以外の中国医学書の漢字表記は、常用漢字にない一部の漢字を除き、常用漢字を用いた。
11. 『素問』『靈枢』『難経』の書き下し文は、東洋学術出版社刊『現代語訳●黄帝内経素問』『現代語訳●黄帝内経靈枢』『難経解説』におおむね準拠したが、個人的判断で一部を変えている。
12. 『素問』『靈枢』『難経』以外の引用文献の書き下し文は、筆者の判断に照らして付した個人的なものである。
13. 『素問』『靈枢』からの引用文の現代語訳では、『素問白話解』（山東省中医研究所研究班篇，1963 年刊）と『靈枢白話解』（陳璧琉・鄭卓人 合編，人民衛生出版社 1962 年刊）の中国語現代語訳をかなり踏まえている。
14. 総論や各論の「参考資料」で、一部同じ引用文を使った部分があるが、総論や各論を説明するうえで必要と考え、同一の文章を引用している。
15. 「参考資料」として引用した古典の語句に対する語釈などを、「語釈一覧」として本書の巻末に掲載した。配列は音読五十音順である。
16. 「参考資料」として引用した文献の「引用文献目録」を、本書の巻末に掲載し、書名・書名の読み方・王朝名・西暦の刊行年・著者名・著者名の読み方を付した。配列は発行年代の古い順である。